第5分科会　要項（案）

**記 録 用 紙**

テーマ「進路・就学支援に関する校内での取組みについての情報交換」

 日時　令和5年８月２日　 　　　１３：１５～１４：４５

場所　光明支援学校 小学部校舎 ２階　３－５教室

進行　宮城教育大学附属特別支援学校

菅原　しのぶ先生

記録　光明支援学校（事務局） 　　　 　菅原　希美

＜ 分科会記録 ＞

1. 自己紹介

２．情報交換

「小・中での進路指導や進路・就学支援について」

・小学部・中学部での進路指導が校内で話題に挙がっている。

・自分の障害を伏せて，他校の友人らと付き合う生徒もいる。

・親の障害受容，子どもの障害受容は課題がある。

・障害者雇用を利用するには，手帳がないと就職先を探すのが難しい。

・手帳持っていなくても，就労を見据えて取得しておくと良い。知的障害の療育手帳が取得できない場合は，精神障害の手帳に切り替えて取得したという例もある。

・手帳を持っていると，地下鉄無料，バス半額などの利点がある。

・手帳出したくなくて，かたくなに大人料金で乗っている生徒もいる。

・手帳があることで，障害者基礎年金も違ってくる。

「進路・就学支援に関する校内での取り組み」

「高等部現場実習の取組について」

・仙台みらい高等学園：実習先の開拓から始める。三幸学園は母体が専門学校の系列なので，そちらも視野に入れながら。新しい分野については，進路担当が地道に開拓していく。

・学校内でも年金受給に向けてＦＰを呼び，家庭・生徒のサポートを行う。

・手帳があれば，年金が受給できることや福祉の手当てがあることを保護者に伝えている。

・校内での講習などで，年金事務所の人を講師に呼ぶ。

・年金受給する際の申請に，小さい頃からの記録がないといけない。診断を受けたことや，障害の状況，行動の状況など。保護者が「どうだったっけ？」となることもある。

― 1 ―

＜ 分科会記録 ＞

「卒業後の支援体制について」

・仙台みらい高等学園：卒後３年間で学校から支援課へ移行していく。

・石巻支援：卒後２年くらいは，事業所を見て回る。

・いずみ高等支援：私立なので，教員の異動も無く，卒後５年間は就労先を訪ねる。

・附属支援：卒業後，相談できる学校以外の窓口を作る。どこに相談に行けばいいのか，それを教えていきたい。終身雇用なんて今時ない。事業所が合わなければ，「○○に相談していいんだよ，□□に行っていいんだよ」ということを在学中から教えていきたい。

・附属支援：卒後３年間。異動で先生も入れ替わるので･･･。当時担当した教員がいなくなっても，学校以外で頼れる場所が作れるように指導していく。

「小学校卒業後の進路選択について」

「中学校卒業後の進路選択について」

・早いうちから将来の話が聞けると良い。

・進学の引き継ぎで，市の支援課の担当が詳しく引き継ぎしてくれた事例も。地方ならではかもしれないが，地域と繋がることも大切だと思った。

・中学校進路選択の際に，父親と母親で障害受容のあり方が違うこともあり，支援学級へ通うか，通常学級へ通うかで議論になることがある。

・親の希望で通常学級へ通うが，生徒はついていけずにいる。その実態をどう理解してもらえるか。

・高校卒業にこだわる家庭もあれば，専門性を身につけられることに魅力を感じる家庭もある。

― ２ ―

話題に挙げたい内容

・「小・中での進路指導や進路・就学支援について」

宮城教育大学附属特別支援学校　菅原しのぶ先生

・「進路・就学支援に関する校内での取り組み」

支援学校仙台みらい高等学園　中野　陽介先生

青山　遥先生

・「高等部現場実習の取組について」

宮城県立石巻支援学校　玉川　幸毅先生

・「卒業後の支援体制について」

明和学園　いずみ高等支援学校　佐伯　敬之先生

・「小学校卒業後の進路選択について」　　　　　　　　　栗原市立栗駒南小学校　 佐藤　良孝先生

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 仙台市立沖野小学校　　 齋藤　響子先生

・「中学校卒業後の進路選択について」

仙台市立将監中学校　鈴木　遥夏先生

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　角田市立角田中学校　富川　洋子先生